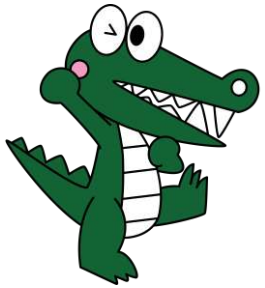
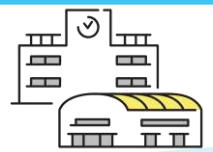
豊中市立庄内さくら学園　未来へつなげる学びの９年間



めざす子ども像

つながる力（自らを深く見つめ、多様な仲間とつながる力）
まなぶ力　（仲間とともに、粘り強く意志をもって学び続ける力）
つくる力　（自らの将来を見つめ、よりよい社会をつくろうとする力）

なだらかな９年間の つなぐ・つみあげるカリキュラム



15歳の姿

第３ステージ（８-９年生）
・一人ひとりが自らの力や可能性を信じ、未来を切り拓いていく力を育む。
・学園の活動をリードする自覚を育み、第１・２ステージ生を支える活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める。

第２ステージ（５-７年生）
・「主体的・対話的な学び」を広げるために、一部教科担任制を導入し、５０分授業をすすめる。
・「自治の力とのつながり」を大切にし、５年生より「児童生徒会活動」に取り組む。

第１ステージ（１-４年生）
・学校生活の学びの基礎や基本的生活習慣の確立を図り、自己有用感を高める。
・学ぶ意欲の土台となる非認知能力を育む。
・1年生よりAETが日常的に関わることで、コミュニケーション力を高める。

庄内さくら学園　学校教育目標

自ら考え、行動し、仲間とともに
豊かな社会をつくる子どもを育てる

豊中市立庄内さくら学園　小中一貫教育の取組み

義務教育学校で大切にしていること

・学校教育目標を前期・後期課程の全教職員で実現していくために、小学校と中学校の要素を融合させた校務分掌や研究体制の整備。
・子どもの姿から授業づくりをしていくため、気軽に話し合える体制を構築。
「日常的な教科会や学年会、教科全体会、授業研究会など、会議の規模を問わずに授業などの取組みに対して相談や助言ができる機会を設定」
・施設一体型義務教育学校であるため、1年生から9年生が同じ施設にいる良さを活かし、児童生徒会活動の推進、異学年交流を積極的に実施。

中学校段階への円滑な接続

・ 9年間の育ちや学びをつなぐため4-3-2の3ステージ制を実施し、ステージごとに目標を定め、それぞれの発達段階に合わせた指導や学びの体制を整え、個々の課題に応じた指導をしていく。
・第2ステージ（5年生）から標準服を着用とし、授業時間も50分授業を取り入れ、複数教科で定期テストを実施。
・週1回、生徒指導会議をステージごとに分けて開催し、学園生の情報と生徒指導の方針の共有を行い、より効果的な指導へとつなげている。

学びの連続

・ステージごとに「つながる力」・「まなぶ力」・「つくる力」の3つの力を育むための目標を定め、それぞれの学びの状況によって「交換授業」や「後期教員の乗り入れ授業」などを実施。
・ 9年間を見通して系統立てた体制を整えるため、教育研究部会が中心となり、学園全体の年間授業研究の計画を立て、日常的に研究授業や授業公開などを行う中で、職員全体が研究に携わることができる機会を設定。
・前期、後期の教職員で小と中の学びについて共通理解をはかるため、定期的に会議を実施。
・家庭学習の定着を目的として、1～9年生で「学習貯金ノート」の取り組みをおこなっている。